



互いに助け合い交流深める

飯館から避難の佐藤さん、三浦さん



花の出荷作業を手伝う佐藤さん(左)と三浦さん(右)

原発事故により、飯館村から避難している佐藤茂さん・美代子さん夫妻と三浦太志さん・育子さん夫妻は、東真行地区の鈴木壽典さん宅などで、農作業を手伝っています。

計画的避難区域の指定を受け、避難場所を探していた佐藤さんに、鈴木さんが協力したことから、現在の交流が始まりました。

佐藤さんと三浦さんは「同じ農家同士、こんな時だから何か力になりたいと思った。汗をかくことで自分たちのストレス解消にも役立ちます」と笑顔で話し、鈴木さんは「非常に助かっています。皆さんも大変なのに、逆に励まされる気持ちです」と話しました。

古里猪苗代に思いをはせる

東京猪苗代町民会総会・懇親会を開催



懇親会の最後には全員で会津磐梯山を踊りました

東京猪苗代町民会(瀧口幸男会長 会員 260 人)の総会・懇親会は9月4日、東京都港区のホテルグランパシフィック・ル・台場で開催されました。町からは前後公町長、鈴木武喜町議会議長、猪苗代民謡伝承会の皆さんなどが出席し、盛会を祝いました。

懇親会には、バンクーバー冬季パラリンピックアルペンスキー銅メダリストの鈴木猛史選手(駿河台大職員)も出席、次回パラリンピックへの抱負などを語り、会員に銅メダルを披露しました。

会場では、東日本大震災の義援金も募られ、寄せられた善意は前後町長に手渡されました。

名所・旧跡を巡り体動かす

猪苗代ノルディックウォーキング



土津神社を訪れた参加者ら

猪苗代ノルディックウォーキング大会は10月16日、カメリーナをスタート・ゴールに開かれ、町内外から約100人が参加しました。同大会は、ポールを使って歩くウォーキングを楽しみながら、猪苗代の自然や歴史に触れてもらおうと猪苗代青年会議所が企画したものです。参加者らは、バンクーバー冬季五輪クロスカントリースキー女子日本代表の夏見円選手(JR北海道)の指導で準備運動をした後、5キロと8キロの2コースに分かれて出発。

猪苗代の秋を感じながら、土津神社や磐梯神社などの名所を巡り、心地よい汗を流しました。

猪苗代湖の水環境を守ろう

雨の中、湖北岸の清掃作業を実施



サイクリングロード周辺でごみを拾う参加者ら

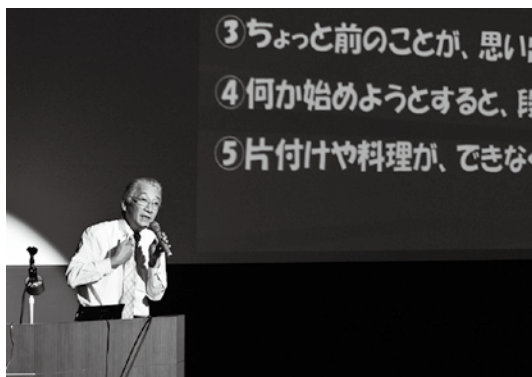
コスモ アースコンシャスアクト クリーンキャンペーン in 猪苗代は10月15日、町内堅田の猪苗代湖北岸で開催され、約300人が湖岸に捨てられたごみなどを拾い集めました。

コスモ石油とふくしまFMなどの全国38局が、全国各地でライブやスポーツイベントなどを実施しながら、楽しく清掃活動を実施する「クリーン・キャンペーン」。今回の活動も、同キャンペーンの一環として、毎年県内各地で実施されているものです。

当日は小雨が降る中での作業となりましたが、参加者らは熱心にごみを拾い集め、環境保全への誓いを新たにしました。

認知症について正しく理解

認知症講演会に関わり方など学ぶ



認知症について講演する千葉さん

町保健福祉課と町地域包括支援センターが主催する、認知症講演会は10月20日、学びいなかで開かれました。

「『ぼけ』でも心は生きている ～具体的な相談や対応法について～」をテーマに、ひもろぎグループ統括部長の千葉喜弘氏が講演。認知症の進行のしかた、予防法や周りで支える人たちの関わり方などについて、実例を挙げながら説明した後、みちのくボンガーズが認知症をテーマにしたコントを披露しました。

会場を訪れた参加者ら約240人は、熱心に聞き入り、認知症についての理解を深めました。

万一の磐梯山噴火に備えて

磐梯山火山防災連絡会が訓練実施



テレビ電話で両首長と対策を協議する前後町長

本町、磐梯町、北塩原村の3町村で構成する磐梯山火山防災連絡会は10月17日、情報受伝達訓練を実施しました。

訓練は、磐梯山で火山性微動を2度観測、噴火警報が発表されたとの仮定で実施。福島地方気象台からの連絡を受けた担当者らが、各町村長に報告した後、前後町長、五十嵐源一磐梯町長、小椋敏一北塩原村長の3人が、テレビ電話を使って現状報告や対策を協議しました。

訓練を終えた3町村では、それぞれが連携し、火山防災体制を確立することの重要性を再確認しました。



子どもたちが収穫喜び笑顔

曲渕大根クラブ会指導で農業体験



地元の人と一緒に、普通のきねにも挑戦しました

福島市立鳥川小学校の5年生56人は10月21日、本町の曲渕地区を訪れ、農業体験に取り組みました。この学習は、県のふくしまっ子体験活動応援事業を活用し、総合学習の一環として実施されたものです。児童たちは「曲渕大根クラブ会」会員の指導を受けながら、大根の収穫や千本きねを使ったもちつきなどに挑戦。ついたもちをあんこもち、きな粉もちや汁もちなどで食べると「おいしい」と声を上げ、大喜びの様子でした。

引率した上石和子学年主任は「実際に土や野菜に触れ、農家の人が心を込めて作っていることが分かったと思う」と話しました。

今後もますますのご活躍を

学びいなで高齢者福祉大会を開催



金婚夫婦表彰を受けた高橋忠さん・千恵さん夫妻

第42回町高齢者福祉大会は10月26日、学びいなで開催され、町内の老人クラブ会員ら約400人が出席しました。

町老人クラブ連合会の戸田忠義会長が「希望と生きがいを持って健康に暮らし、社会参加できるように頑張ろう」とあいさつ。役員表彰、会員加入増強老人クラブ顕彰伝達の後、しあわせ金婚夫婦が表彰され、32組を代表して高橋忠さん、千恵さん夫婦（川桁長寿クラブ）に表彰状が手渡されました。式典後は、各地区の老人クラブ会員らがアトラクションを披露し、来場者を楽しませました。

復興を願って猪苗代を疾走

本町で初のハーフマラソンを開催



写真上 前日からの仕込みに始まり、当日は3,000食分の豚汁を振る舞った町食生活改善推進委員会。星久子会長（右）は「参加者に猪苗代のおいしい野菜を食べてほしい」と話し、笑顔で豚汁を振る舞いました
写真下 親子部門で優勝した篠原貴宏さん・悠さん（中央・楳葉町出身）は避難先の千葉県香取市から出場。「練習通りの力がでてよかった」と優勝を喜びました。町内から出場した渡部誠さん・峻太さん（左端・四ツ谷）は、家族の声援を受け、見事4位入賞を果たしました



ゴールを目指し、カメリーナをスタートしたハーフマラソンの参加者ら

ゼビオ猪苗代湖ハーフマラソン2011は10月30日、秋の深まりを見せる猪苗代湖周辺で開催されました。レースは、町総合体育館カメリーナをスタート、町サイクルセンターをゴールとするハーフマラソンを中心とした計13部門で争われ、ランナーたちが健脚を競いました。

男女ハーフマラソン完走者のうち、30人が東京マラソン2012の出場権を得られるとあって、同クラスには約2400人が出場。完走を目指し、秋の猪苗代路を駆け抜けました。メイン会場となったカメリーナには、多くの町民や学生がボランティアとして参加、大会の円滑な運営に一役買いました。本町産の野菜を使った豚汁や手打ちそばなどが振る舞われ、ランナーや応援の家族などから好評を得ました。

男子は学石、女子は田村V

町内で県高校駅伝競走大会を開催



田村の優勝に貢献した鈴木美姫選手（右）

全国高校駅伝競走大会出場を懸けた男子第56回、女子第29回県高校駅伝競走大会は10月28日、カメリーナをスタート、ゴールに開かれ、男子は学法石川高校が18年ぶり3度目、女子は田村高校が4年連続17度目の優勝を飾りました。

レースは男子7区間42.195分、女子5区間21.0975分で争われ、町内からも数人の選手が出場。女子の3区では鈴木美姫選手（田村高2年・東中出身）が快走を見せ、田村の優勝に貢献しました。地元猪苗代高校の出場こそありませんでしたが、沿道に詰めかけた町民からは、すべての選手に声援が送られました。

復興への願いを込め大空へ

町営牧場でいなわしろ凧揚げ大会



畳4畳分ほどの大だこが空高く揚がりました

いなわしろ凧揚げ大会は10月23日、町営牧場で開かれ、参加者らが自慢のたこを空高く揚げました。

同大会は、原発事故による風評被害の払しょくを願い、安心・安全な猪苗代を全国に向けて発信するため、実行委員会が主催、町風評被害対策委員会の共催で、初めて開催されたものです。

日本の凧の会の協力で、1都6県から手作りの愛好者ら約50人が参加。秋の大空に、大だこや連だこなどを揚げました。

会場では、親子のたこ作り体験などが実施されたほか、いも煮やコーヒーマーなども振る舞われ、参加者を喜ばせました。